

資 料

- 1 活動事例にみる安全教育の工夫
- 2 「安全教育とは」を講義する
- 3 要注意人物の二つのタイプ ～ぼんやり君とうっかり君～
- 4 子ども会KYTの活用法
- 5 「安全教育」研修会での学習の進め方
- 6 ビデオフォーラムーその2
- 7 危険予知トレーニング 9ステップのすすめ方
- 8 子ども会KYT模造紙版・OHPフィルムの活用方法
- 9 9ステップ KYT記入シート



みんなで憶えて、みんなで作る



お年寄りのみごとな手ちばき感心しきり

水の事故防止への

一工夫

夏休みの子ども会活動に、海水浴、プールでの水泳教室はつきものです。事故者として一番神経を使う活動ともいえる水の事故防止への対策は、

● プール管理者の養成

プール管理者養成講習会を開きます。子ども会夏季プール指導の実際を、衛生管理、水質基準、安全指導、監視の方法、救急手当ての方法、呼吸器生体法、搬送法、プール内でのゲームのやり方などについて三日間の実習を行ない、プール管理者資格の認定を子ども会で行なっています。質の高い管理者をめざして参加者は大奮闘。(東京都葛飾区)

● 海の中のプール

臨海子ども会での工夫です。
①子どもたちが二人組(パティンスタム)をつくり、互いに相手を意識し助け合わせている。
②子どもの能力を考慮した色防止(赤穂)を別組織にして対応している。
③黄色のタスキをさす目印にすると共に、万一の場合の引き上げ用になっている。

特徴的なことは、ゴムホースを使って安全な遊泳区域をつくり、上がる時には

地縄綱を引くようにたぐり寄せて全員を水から上げます。これで確認も出来る状です。(群馬県桐生市)

● 帽子と手首の輪のアイデア

まず、砂浜の清掃から始めます。ガラスの破片や空缶など砂浜は思わぬ危険がいっぱい。その後、番号のついた帽子と手首にはめる輪(一人一セット)を渡します。海に入る時は育成者に帽子を渡し、海から上がったときたら手首にはめる輪と取り替えます。この方法で、海に入っている子の数と名前が一目で把握できました。

水の事故は生命にかかわるだけに、安全への取り組みには細心の注意がはらわれ、さまざまな工夫がみられます。

道具を正しく使おう

既製商品の中で育つ現代の子は、生産、創造の機会から遠ざかり不器用な物を大切にしないと言われます。また、日常使用するナイフ、ノコギリ、キリ、針など一歩まちがえば大事故も起こりかねない凶器となりうる道具の正しい使い方を教えることは、大人の大切な役割です。

● 三代目ふれあい交流工作会

しの飾り、豆鉄砲、竹トンボ、凧、お手玉など故郷に昔から伝わる道具や民具

を、高齢者を講師に招いて親子で教えてもらいました。子どもたちは、お年寄りの見事な手さばきに感心したり、ノコギリの使い方を手をとって教えてもらって作品を作ったりする中で、技術だけでなく心のふれあいが深まりました。(山梨県青草町)

● 農作業を通して思わぬ発見

子ども会でじゃが芋を植えることになりました。ここはじゃが芋の作付農薬地域なので、子どもたちはクワやカマを使った体験があると思っていたところ、誰も使えないことを発見しました。現代の機械化された農作業の中で育つ子どもたちは、クワやカマを知らなかったのです。思いがけず、その使い方から始めることになり、農業地域だから農作業が出来るという思い込みを反省させられました。(長崎県森山町)

道具を正しく使えるようになった子どもは、道具の役割を知ります。役割を理解できると道具を大切にし、より技術を高める努力をしています。

やもすると指導者からの一方的な教育になりがちで安全教育を、子どもも活動を通して体験から身につけようとする工夫の数々、いかがでしたか。次回は、安全教育活動を支える組織やよりユニークな活動事例をご紹介します。

活動事例にみる安全教育の工夫



水泳教室の安全には万全の備を

楽しい子ども会活動を通して、子どもたちがのびのびと成長していくことは、指導者、育成者の最大の願いです。

そのためには、一つひとつの活動が安全に運営され、事故の心配がなく展開されることが大切な要素になります。

子ども会活動に安全教育は不可欠だといわれる理由はここにあります。さて、安全教育のぬらひは、子どもたち一人ひとりが安全確保能力を身につけ、それを高めていくことです。

そのために各地で取り組まれている安全教育活動の事例を、冒険と安全のすすめに掲載した中から選んでご紹介しながら、安全教育について考えてみましょう。

KYT(危険予知訓練)に工夫

安全教育の中で群を抜いて実践されるのが、KYTシートを活用した教育です。活動中の絵を見て、危険を想定されることを見つけ討論を重ねて危険予知能力を身につけていきます。それに工夫を加えた実践事例です。

● 機らのKYTシートをつくろう。

生活や遊びの中で、自分たちが気づいたことを、子どもたちの手でKYTの絵にしました。絵にすることで安全に対して主体的に取り組む意識が生まれ、身近にひそむ危険も自覚できるようになりました。なにより子どもたちの視点の的確さには眼を見張るものがあります。(三重県四日市市)

● 手づくりKYTフィルム映写会

KYTシートをOHPにかけるフィルムにして、視覚に訴えながら説明をつけてみました。説明も物語風に台本を作りわかりやすくしたところ、単位子ども会でも活用しやすいと好評です。巡回して手づくり映写会をしています。(滋賀県彦根市)

● 手づくりKYT紙芝居誕生

紙芝居を語った右に出る者がないという特技を持った育成者が、KYT紙芝居を作りました。拍子木の響きと共に始まる紙芝居安全教育は小さな子どもから大人まで楽しみながら学べる活動と人気上々です。まさに人材活用の好事例です。(埼玉県東飯能市)

いろいろな工夫をこらして「活動の前にはKYTを」を合言葉に、全国で様々な取り組みがなされています。

板書の仕方

今日のテーマについて

1. 安全教育の歴史
 - 一 安全教育を考える視点
2. 安全教育の課題
3. 安全教育の課題に対する対応の仕方

18世紀蒸気機関が人間の生活を一変する
その燃料となる石炭
一炭坑夫の問題が安全教育を生む

安全教育の始まり

- 3E 工学的な対策 (エンジニアリング)
- 規則的な対策 (エンフォースメント)
- 理解を得る (エデュケーション)

子どもの安全教育 1910年
王立事故防止協会
トータルセーフティの考え方

安全教育の定義

人間が行動するあらゆる場面で、
それに求められる安全な行動が
できるように力を授ける教育的
営み。

安全教育一その時期に事故が
起きないようにする
一将来にわたる安全
の基本を身につける

あるのです。

石炭は、ご承知のとおり炭坑夫によつて掘り出されます。坑内での作業は事故も伴うものでした。炭坑の事故により、生活ができなくなった人を救う互助的な制度ができ、次第に保険という形に姿を変えていくのですが、これは事故が起きた後のことではなく、事故が起きる前について考えなくてははいけません。とすると考え方が生まれました。これが、いわゆる3E対策とよばれるものです。

炭坑では、落盤が起こらないようにすることに加えて、酸素不足を知るために坑内に鳥を飼うなどの工夫も生まれました。鳥が元気がなくなることで酸素を知るといふのです。坑内に入る時は必ず鳥かごを持っていくなどの規則的な対策も生まれました。それだけではなく、水はけの問題などを科学的に解決していく工学的な対策も施されました。そして、工学的な対策も規則的な対策も、当時の炭坑夫が理解していかなくてはならない訳です。ここに教育というEが必要になったのです。

● 子どもの安全教育の始まり

では、ここで子どもの安全教育はいつ頃から始まったのかを考えてみましょう。

それは、一九一〇年代といわれています。イギリスで王立事故防止協会ができ、子どもの安全教育というセクションを設けたのです。ここで安全教育という視点にはトータルセーフティあらゆる生活場面に関して、子どものころから教育していこうとする考え方があったのです。薬の安全、食べ物に安全に至るまで考えていたのです。

日本では、一つひとつの行動についてはその安全を考えていますが、トータルな中で個々をとらえなければ安全教育は不十分なのです。一つのことだけをとらえたのでは、全体に広がるような形になりません。

このように、子どもの安全教育の始まりは二十世紀の初頭です。その時すでにトータルセーフティの考え方を持っていたのです。

● 安全教育とは

そもそも安全教育とは何なのでしょう。トータルセーフティの考えを歴史の中から述べてきましたが、定義をしてみましょう。人間が行動するあらゆる場面で、それに求められる安全な行動ができる力を授ける教育的な営みといつてよいでしょう。

これからの安全教育のとらえ方は、次のように整理しておくべきだと思います。子どもの時期に、事故に遭わないという

ことと将来にわたる安全に対するしつかりした考え方を持つようにすることだと考えます。デザイナーになった人は、子どもの時に受けた安全教育の効果があるようにしなければならぬということ。それには、デザインを考えなければいけません。考え方はなく、安全という視点を忘れないように子どもの時期に基本を学ぶというところが必要であるとする考え方で。つまり、教育は未来永劫に学んできたが生かされていくことがなければならぬということとす。

安全教育に関しては、特にこのことを強調しなければならぬと考えられています。将来のこうした力を作り上げていくことを考え、ご理解いただきたい。例えば、食べ物に從事していく子であれば、見た目よりも安全性を重視する考え方を持つ大人になるように育てることです。

さて、ここで、あらゆる行動ということをとらえていますが、メカニズムから安全についてとらえてみましょう。

一つの行為が事故なく、問題なく進むためには、三つの箱があるのです。人間は誰でも、この三つの箱を持っています。このことは、情報の処理と同じです。

一つめは感覚器官の箱です。この感覚器官を通った情報が、二つめの箱である大脳に入ります。そして行動の箱に指示を出すのです。その指示に従って行動をする箱があります。(九月号につづく)

「安全教育とは」を講義する

①

平成六年度安全教育推進委員研修会を開催し、安全教育研究所長 星 忠通先生に基調講義をお願いしました。今月は、星先生の講義を再現することで、皆様の安全教育活動の参考としたいと思います。

子どもの安全教育について三つの視点から皆様と一緒に考えていきましょう。

一つは、安全教育をとらえる視点です。

安全教育という概念ができた歴史をおさえることでその本質を理解していきます。

二つは、安全教育の問題、を考えてみましょう。

そして、三つめは、その対応の仕方、を考えていきましょう。



星 忠通
安全教育研究所長
交通安全教育字（専攻）
昭和20年8月生れ
昭和45年9月 ニューヨーク大学大学院修士課程入学
昭和47年8月 慶応大学院了（交通安全教育専攻）
昭和48年4月～51年3月 多摩美術大学講師（人間工学）
昭和51年4月 安全教育研究所長
昭和53年4月～56年3月 武蔵野女子短期大学講師（安全教育）
昭和56年4月～日本大学生産工学部講師（心理学）
著書
『交通安全一日一題』(上)(下) 東京法政出版株式会社
『よりよき運転者と歩行者をめざして』 広島県グンパ協会ほか多数

●安全教育の始まり

安全教育の始まり

さて、安全に関する歴史をとらえてみましょう。これは原始の時代から私たちが

の課題でした。上手に狩猟をし、けがを

しないようにしてきたのです。けがをしないために占いをしたりする精神的なものでした。それが科学的なものとなるのは、安全に対する目標が定まったことによりです。十八世紀にこのことが定まり

ました。

それは蒸気機関の発達によるものです。蒸気機関により、私たちの生活は一変したのです。このエネルギー源は石炭です。実は、安全教育を考える出発点は石炭に



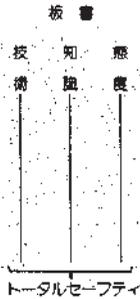
● どのような教育が求められるのか その対応の仕方について

基本的なことをお話してきましたが、具体的にどうしていけばよいのでしょうか。安全能力を身に付け、未来永劫に安全に対する基本的な態度を培うにはどうしたらよいのでしょうか。このことを考えてみましょう。

① 態度について。

先にも述べましたが、安全性は人にも自然にも優しいということですが、洗剤一つ取っても環境汚染が問題になります。環境を破壊するものは使わないといった態度を養うことです。職業人となってもこのことを基本にした仕事をする事ができるようにすることが大切です。

そのためには、子ども全ての調べ活動を積極的に取り入れていくことが求められます。知識として習得するだけではなく、自分たちが調査して気が付いていく活動をしたいです。気が付いたこ



とは実行に移していくことにつながるのです。自ら調べ、その結果を自分の生活に生かしていく営みをする態度の養成、これが第一です。

② 知識について。

用具の使い方、緊急に対応する能力などがしっかり身に付いていなければなりません。軽い捻挫だからといってひっぱったりして、かえっておかしくしてしまうことがあります。徹底して冷やすなどの応急手当てについての知識も備えていることが求められます。特に、危険に対して予測する能力が求められます。

皆様もご存知のことと思いますが、危険予知能力ですね。予知能力とともに必要なのが危険回避能力です。

さらに、万が一事故があったときその事故を大きくしない能力が知識としてなければなりません。

③ 技術について。

私の専門の交通安全で捉えますと、まず、歩く能力・止まる能力、自転車であれば、運転する能力・ハンドル捌きなどが技術としてあります。野外活動での料理作りで包丁を使う技術・火起こしの技術がなければ安全に活動を進めることが出来ません。

これらは一朝一夕に備わるものではありません。積み重ねていくことにより技術が身に付くこととなります。その年齢

にあった技術・課題があります。このことを具体的に知るために子ども会は異年齢であることが強みだと考えます。

子ども金については詳しくないので、子どもたちがお兄さん・お姉さんを見て育つ中で年齢にあった技術を知ることになると思いますが、いかがでしょうか。このことは皆様の方が専門です。

● まとめ

一方的にお話をしましたが、安全教育はあらゆる生活場面で取り組んでいくもので、活動を支える基本として身に付けていなければならないことです。切りだしナイフのキヤッチャをしなで、その場に置いておくようなことは生きていく基本姿勢として下さいことです。

子ども金活動は、活動を通して日常生活を豊かにしていくのだと聞いています。活動の喜びと同時に、活動を通じて身に付けていく安全に対する態度・知識・技術をしっかりとらしたものと欲しく願っています。

安全教育はトータルセーフティなので私のお話が皆様の活動に少しでもお役に立てば幸いです。

「安全教育とは」を講義する

②

前号に引き続き、平成六年度安全教育推進委員研修会での星忠通先生の基調講義を再現します。安全教育活動にお役立てください。

星 忠通 安全教育研究所長



● 三つの箱がそれぞれ課題となる

三つの箱の一つひとつが安全教育の課題になります。まず感覚器ですが、子どもと大人とは異なっていることを自覚しなくてはなりません。例えば、視界を取り上げても見える範囲は異なります。両手で、水中眼鏡を影どって見るような視界になります。このことを知らずして、私たちは常に大人の目の高さ・視野で判断するのです。

時には「しっかりと左右を見なければ危ないでしょう。どうして気が付かないの」などと自分の視野でものを捉え、子どもの注意力が散漫であるかのような指摘をします。これでは子どもたちはたまりません。

「ぼくは見えないのだよ」などという余裕は与えてくれません。安全教育の課題の一つは、大人の考え方や視野すべてを見て、進められることです。この間違いを直すことです。

二つめの課題は二つめの箱にあります。判断する能力です。この判断する能力は経験の違いにより異なっているのです。ナイフの使い方を取り上げて経験がものを言うのです。少しの怪我の経験が大きな怪我をしないように働きます。知識としての判断力では本当に対応できる力とはなりません。

① 知っていると出来るとは違います。プールで泳げるようになった子が海で泳げることはありません。海で泳ぐということとは水温や水の流れなども知らなくてはなりません。ぼく泳げるという判断はその子のプールでの経験からのものであり、本当に判別する能力が備わっていることに至っていないことがあります。

② わかっているつもりでわかっていないことがいっぱいあります。幼児が九九を知っていても割り算を知っていても、友達とおやつを分けるときに使うことが出来なければ、ものを知っているに過ぎないのです。ものを知っていることは能力の一部であり、判別するためにはいろいろな経験が必要だと考えます。積み重ねていく体験をどのように生活の中に位置付けていくかが二つめの課題でしょう。

三つめの課題は、具体的に身体を動かす行動能力です。身体を使うためには筋力とそれを指示する神経系統の運動が必要で、特に協応動作が大切です。一つの行為にもう一つの行為を重ねる能力です。歩きながらまわり方に注意を払うなどがこれに当たりです。この三つの課題を子どものうちから背むことが安全教育の具体的な目標です。先に（先月号）捉えましたが、この教育により、安全性を基にした営みが未来永劫に継続していく態度を養うことが肝心です。安全教育とは怪我をしないというところもありますが、態度を養うことがまず大事な視点なのです。安全教育は、安全に対する態度・知識・技術を養うこととてす。

た。学生は実験装置も測定器も問題がない、なぜ動かないのだろうか、さんざん頭を悩まし、調べた結果わかったことは昨日うまく行ったときと何も変わっておらず、なにも壊れていないということでした。

しばらくして、何が原因かわかったか聞いたところ、なんと測定器のコンセントがひとつ抜けていたそうです。

実験に関する専門知識や実験装置の取り扱い扱いに関する細かい約束事が頭の中を占領してしまうと、そればかりが心配になって、単純なことや本質的なことに気づきにくくなるものです。また、取り扱う対象が複雑なシステムである場合には、動かない原因も複雑なものであると思いきんでしましますが、失敗や不具合の原因は、素外単純で身近なものであることが多いようです。

● ぼんやり君と うっかり君

以上二つの話から危険に巻き込まれやすい二つのタイプについて考えてみたいと思います。ぼんやり型とうっかり型です。

ぼんやり型の学生は対象物に対する興味が少ない、緊張感が感じられません。

機械が限界まで動いているのを見逃して、衝突させてしまうようなことがあります。ぼんやりして、なんでも見過ごしてしまいます。

うっかり型の学生は行動はすばやいのですが、おちよこちよいです。散漫なタイプでどちらかといえば落ち着きがありません。うっかり電源のプラスとマイナスを逆につないでしまい装置から煙を出してしまうようなことがあります。

● 学生への処方箋

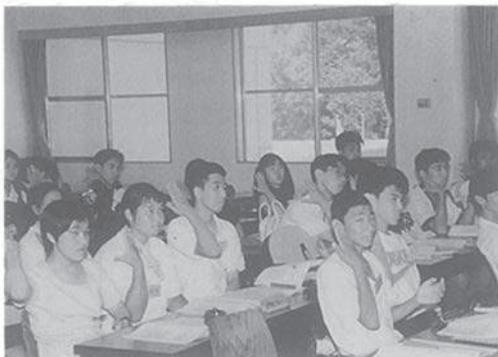
私は学生に対して次の二つのことを要求しています。

まず自分にどういうタイプであるかはっきり自覚することです。これは自分に対する責任感を育てることであり、周囲に対する責任感を育てることもあります。私自身小さい頃から「飛び出したらダメよ」と言われ続けてうんざりしましたが、自分がうっかり型であるとかわかってからは行動が少し慎重になったように思います。

もう一つは習熟することです。あることに隣ではもう説明書はいっさい見なくても、目をつぶっていてもできるといふくらい精通します。これは熟練するとともに集中力を育てることもあります。

● もつとトラブルに 親しもう

テレビが映らなくなり、故障したと思つたら、アンテナの線がはずれていた、なんていう経験はありませんか。わたしたちは目前にある現象に思考の対象を限定してしまいがちですが、見えないところに落とし穴があるものです。洞察力を養いたいですね。そのためには日常的な単純なトラブルにもつとつと巻き込まれることです。



第26回全国子ども急リーダー研究発表より

要注意人物の二つのタイプ

ぼんやり君とうっかり君

河村 隆 信州大学講師

● けが人が出ないかな

—緊張感の必要性—

私が中学生だったとき、技術家庭科の授業で木工機械を扱う時間がありました。このとき、先生は機械の基本操作と、その作業にある危険な箇所を熱心に話した後こう言いました。

「どんなに予め注意を促しても必ず事故が起こります。それはほとんどの場合、緊張感が足りないからです。注意しているつもりでも緊張感がなければ事故が起こります。私の願いは、一刻も早く誰かがけがをしてくれないかということです。そうすればみんなの緊張感が高まります。これが結局はいちばん安全なのです。」

この話を聞いて、わたしは少し背筋が寒くなりました。先生というのは生徒の安全を第一に考えているのではなかったのか。みんなのためとはいえ、けが人が

てる方がいいなんて……その練習でけがをした生徒がでなかったのは、ほかの生徒も私と同じように背筋が寒くなったからでしょう。

● コンセントが抜けています

—注意力も大切—

私は現在、理科系の大学で講師をしています。学生に実験をやってもらったときのことです。

はじめに学生に実験の内容、装置、期待される結果を説明して実験をやってみせました。装置は正常に動いており、正に期待通りのデータをばじき出していました。

翌日、本格的に実験を開始するはずであった学生が血相を変えてやつてきました。「先生、装置が壊れました。」



第26回全国子ども会リーダー研究集会で講師中の筆者

装置に故障はつきものですが、危険を伴う場合もあるので、私に、けがはなかったか聞いたところ、

「そうではありません。データが全然でてこなくなりまして。」

装置を昨日のセッティングから何かいじったか聞きましたが、何もいじってないとのこと、それはおかしいなということ、詳しく調べてみるように言いました。

子ども会KYTの意味を研修活動で理解し、活動の事前には必ず実施することがKYTを有効活用していくことになるのです。

◎安全教育(安全学習)

研修会での子ども会KYTの持ち方

子ども会KYTを学習教材として用いるには、KYTシートによる危険箇所を捜すだけで終わっては、クイズの間違え捜しと同じになってしまいます。KYTの学習は、具体的なことを学び、それを一般化してはじめて他に応用できる形として定着するのです。具体的なことを抽象化する能力は、小学校三年生から四年生にかけての課題でもあります。また、子ども会の研修ですので、楽しくありたいものです。子どもたちが目を輝かせて取り組むよう展開する必要があります。

▼導入段階

導入段階では、意欲づくり・動機づけがポイントになります。

「キャンプに行ったときです。とても良い気分でした。ついうっかりすることがあります。」

他に気を取られて、熱いおなべに触ったり、テントの中が暗いのでロウソクをつけてしまったりします。今までキャンプについていろいろ勉強してきました。そのことのおさらいも兼ねてこれからKYTシートを配りますから、まずこんなことをしてはいけないと思う箇所に丸を付けてみましょう。まずは一人ひとり付けてみることにしましょう。十か所丸を付けることができれば君は大きな二重丸です」などとすすめます。

導入段階では、必ず個々の子どもに焦点を合わせることで、すぐ

にグループを作り、話し合わせる。何とも意見を言わないで終わってしまう子が出てしまいます。

「さて、丸を付ける作業はこのへんで終わることにしましょう。次はその丸を付けたことをグループ毎でまとめてみることにします。キャンプでの班ごとにまとめてください。班ごとに一枚ずつ皆に配ったものと同じものを配りますので、代表者とりきでください」などと進めます。一人ひとりの気付いたことを班でまとめることにより、一人より多くの人が見つけた方がいろいろな点で優れていることに気がつきます。自分の気がつかないことも発見できることになります。

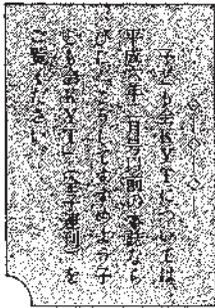
「どの班が一番あげることができようか。多くあげても肝心なことが抜けていたのでは仕方ありません。他の班が気がつか

ない点だけを捜していたのではいけませんよ。一番大事な点を落とすしてしまつては何にもなりません」などと注意をして、班ごとの活動に入りますが、時間を区切ることを忘れずしてください。「今から10分間でします」。

ここまですべて子ども会KYTの導入です。この導入段階がとても大切で、これからの作業や活動を左右するといっても過言ではありません。

「よいイメージはよい行動を生む」というわけです。

次号は子ども会KYTの展開・整理について掲載します。



子どもも会KYTの活用方法

◎はじめに

子ども会KYTは、産業界における危険予知トレーニングをもとに考案されたものです。毎日の作業過程において注意を怠ると災害につながる点をイラストにより事前にチェックする目的で作成され労働災害をゼロにするための研修活動で用いられました。

時間をかけて作業を振り返り、よく陥る点を確認し、安全行動の方法を探るものですが、作業は毎日繰り返されるものであり、毎日研修会をすることはできません。そのため月一回の研修会やミーティングができればよいという状況であったようです。しかし研修会

で安全に対する心構えができてくると、日にその意識は落ちていくものです。そこで毎日の作業前に、手短に行なう方法などが考案されてきました。

新KYTが誕生することになります。新KYTは、「みんなできやく、正しく」をねらいとして作成されました。

毎日の作業前に今日の仕事にたいする心構えを作りだすねらいでゼロ災害運動方式KYTは幾多の実践から生まれたのです。

◎子ども会KYTの活用

子ども会KYTは、時間をかけて研修会で用いる方法が多くとら

れています。特に、育成者・指導者を対象にした研修会で実施されている安全教育研修会の中心となる学習内容でもあります。しかし、産業界では毎日の作業前にKYTを実施する習慣が確立されていません。子ども会でも同じように活動前に危険に対する心構えを産業界と同じようにつくる必要があります。

子ども会KYTも、「活動の前に必ず実施」を合言葉にし、充実した活動を展開したいものです。ところですぐに活用するためには、KYTに馴染みがなくてはなりません。そこで次の二通りの学習を進めてほしいと思います。

●子ども会KYTを徹底して学習する研修会を開催すること

●活動の前に必ず子ども会KYTを実施すること

活動前に進める時間的な余裕がないときは、家庭での学習やバスでの移動時間などを活用することも考えられます。

両者はそれぞれ単独で行なっても効果はあがりません。研修会だけでは実際と結び付かなかつたり、活動の前だけ行なうのでは、KYTに時間がかかりすぎるといった状況があることと何故やるのかという意義が理解されないでしょう。



◎話し合い

●話し合いの方式

人数が多い場合はバズセッションを活用して多くの人が意見を言えるようにする。

●感想から話し合う。

共通するものを出し合う。

●一人ひとりの生活体験に引き寄せる。

●具体的なことを抽象化することを通して本質的なことを理解する。

●整理し、スローガンなどにして、強力に実践することを約束する。

ビデオを使った学習の組み立て方

◎学習の段階を三つに分ける。

●ステップ1「安全教育の基本」

●ステップ2「準備・計画と子ども

の成長」

●ステップ3「運営方法」

◎ステップのそれぞれの時間配分

それぞれの段階で十分な話し合いができるようにそれぞれ1時間30分ずつは必要とする。

◎日程の組み立て

それぞれを個別に学習することができ、月一回として二か月を

ワンクールとして日程を組み立てることができる。

具体的な進め方

ステップ1「この日の輝きを」

―安全教育の基本―

制作意図と上映前の解説
(事前指導)

「子どもたちは自然の中や遊びの

中で冒険に挑み、その体験から安全

の力を身に付けていきます。しかし、

現在は残念ながら遊び場も時間も奪

われてしまった子どもたちです。そ

んな中で、キャンプなどの活発な活

動に取り組んでいる子どもも会の役割

は大きいと言えるでしょう。

でも、いざ出かけるとなると、安

全面ばかりチェックされ、子どもた

ちが最も望んでいる冒険が影をひそ

めてしまっている場合が多いようて

す。一体、本当の安全とはどういう

ことなのでしょう。このビデオを

見て話し合ってみましょう。」

話し合いの進め方

1、感想を話し合う。

2、感想の中から、共通して

感じたことをまとめる。

まとめ方として次のようにする。

①子どもへの行動に関すること

②大人の行動に関すること

③課題解決した行動に関すること

④自分の子どもも会の課題との関係が

らとらえたこと

⑤その他

3、自分たちの体験事例を食め

「安全教育の基本」を考える。

話し合いは次の2点とする。

①子どもたちが「目を輝かせる」

視点と安全教育

②親への意識改革と安全教育

ステップ1のまとめ

「なにもしないで、ジツとしてい

れば確かに事故にはあわないでしよ

う。それで本当に子どもたちは成長

することができているでしょうか。

事故を恐れるあまり「あれをして

はいけない」「これも危険だからダメ

と禁止すくめて事故防止に必要な安

全能力が身に付くはずはありません。

むしろ子どもたちの発達段階に應じ

てその時期に必要な体験を十分にさ

せることが、自分自身で事故を防ぐ

ことに役立つ能力を身に付けていくことになるのでは話し合いましたね。

それには子どもたちがやりがいの

ある魅力ある活動が第一に必要です。

子どもが夢中になって全てのエネルギーを投入するような活動を通じて、

自分にもこれだけの力があるんだと

いう自信に溢れた活動の体験の場が、

今こそ必要だと話し合ってきました。

などとまとめよう。

スローガンをつくり、発表する

「ではここで、以上の話し合いを

スローガンとしてみましょう。」とな

げかけて、小グループでスローガン

づくりに入る。

スローガンができたところで、発

表し合う。

「どのスローガンもとてもすてき

ですね。スローガンは掲げておくだ

けでは意味がありません。いろいろ

な機会に大きな声で読み上げてみま

しょう。そして、スローガンの精神

を具体的に展開していきましょう。」

とまとめます。(ステップ2とは次号)

これまで、「安全教育推進」についての数多くの実践活動を掲載してきました。その内容から学び、自分の子ども会活動に生かされている所も多いことと思います。今月から三回にわたり、安全教育の学習方法と教材について紹介し、六月号から実践活動を掲載いたします。

「安全教育」研修会での 学習の進め方



はじめに

「安全教育」研修会を開催する

とき、その主旨はよく分かるが、具体的に学習を進める段になると、一番先思い付くのが「子ども会KYT」であろう。子ども会の安全教育の教材は「子ども会KYT」をもってすべてと考えていないだろうか。

確かに安全教育に関する教材については多く紹介されていないのが現状であるが、全国子ども会連合会が制作した映画「冒険と安全シリーズ」を活用しているだろうか。

さらに映画よりも操作等が簡便であるビデオについては存在してはどうか。

今月はこのビデオを活用した学習

方法について紹介をしたい。

ビデオは三本が1セットとなっている。その三本は「この目の輝きを」「キャンプ」「水の事故ゼロへの願い」である。

この三本は安全教育を考える上で重要なポイントを私たちに教えてくれる。

安全教育の基本的な考えを示唆してくれる「この目の輝きを」、安全教育は子ども会活動の活性化との関連からとらえることが重要であり、子どもの成長を促す活動の展開方法を示唆してくれる「キャンプ」、子ども会活動を具体的に進める上での運営方法を示唆してくれる「水の事故ゼ

ロへの願い」の観点を示すものである。以下具体的にビデオ活用する方法を示したい。

ビデオを使った学習の要点

◎ビデオの選び方

どんなビデオを選ぶかにより、学習効果を上げることが出来るかが左右されると言っても過言ではない。ビデオの選択は重要である。

◎上映前の解説

上映前の解説は何のためにこのビデオを見るのが目的意識を醸成することに意味がある。詳しく解説し過ぎて興味を半減させてはならない。解説時間は2〜3分程度とすること。時には解説せずにすぐにビデオを見る方法もあってよい。

◎映写開始

映写中は解説を入れずに、運営者は、見ている人たちの行動を観察するとよい。中には熱心にメモをとり、涙を流す人もいいる。この状況を見ておき、映写後に見ている人たちの態度について運営者がコメントするとよい。





た子どもたちが徐々に真剣になり勵ましあつていく姿に変わります。はじめでのテント設営。野外炊事での材料を忘れた子の行動と助ける班員たち。喧嘩をしても翌日のウォークラリーでは班がまとまっていきました。子どもたちははじめての体験の中でぶつかりあい助けあつて成長していきました。キャンプ計画の中で事前準備の話合いがもたれました。テント設営、野外炊事など活動の基本となる技術の修得。不安やためらいを克服するためのキャンプ活動の全体的なイメージ作りなどの確認です。安全に関しては、事前一週間の

健康状態のチェックや安全カードの携帯などがあります。それらの内容を再確認しながら、実施にあつて大切なことは、子どもたちの行動を見守る姿勢であることを話し合いました。これらの活動の中で重要な役割を担ったのが指導者です。その態度・知識・行動は親の意識を変えていきました。育成会の存在と指導者の拘わり方の重要性です。

子ども会活動の展開には、目標の設定、達成への具体的設計、次へ繋げる活動展開と成果を反映できる日常への取り組みが必要です。

●ステップ3

「水の事故ゼロへの願い」

★運営方法★

一 事前指導

「このビデオは子ども会活動で実際に起きた川と海の事故事例を取り上げ、事故の起因の詳細な分析と事故防止の留意点を導き出しています。海水浴、川遊びなど子ども会におけ

る水辺の活動の必要性は分かっているても、事故を恐れるあまり、ともすると活動が停滞しがちです。こうすれば自信がもてると言えるところまで話し合ひましょう。」

二 ビデオを観賞する

三 話し合いの進め方

次のことを板書します。

- (1) 事故が起こる状況について
 - (2) 事故を防ぐチェックポイント
- 3つの確認

①

②

③

- (3) 事前踏査(入念な下見)について調査のポイントを列挙してみよう。

(4) 他への応用

「このビデオで学んだことを、他の活動でも役立てるには、班別・色別監視体制などの安全への配慮をどのように応用することができるとしよう。」

うか」と問いかける。

四 話し合い

五 話し合いの結果を発表する

六 まとめ

★まとめの例

命に拘わる事故を招く危険性をはらんだ水辺の活動でも、慎重な下見、安全水域の確保、班別・色別の監視体制、パディ・システムなどによって子どもたちの安全が図れることを学びました。これらの考え方を他の活動に応用する必要があります。そのためには、日常の班活動の充実でメンバー相互の特徴を知ることが基盤です。事故防止の基本は日常の班活動での拘わりあいの密度にも左右されるからです。長期ビジョンを持って、一年間の見通しを立て展開することや事前準備・計画のためには月間計画も必要になります。以上ステップ3から学んだことを実践に結びつけ、子ども会活動を充実させていきたいと思います。

ビデオフォーラム — その2



とを板書します。

(1) 「安全教育の基本」について学んだことをもとに、具体的にキャンプ活動を通して再確認しよう。

(2) キャンプ活動を通じて、子どもたちは何を身に付けていくのかを話し合ってみよう。

(3) 事前の準備で何が必要なのかを次の二点からまとめてみよう。

① 子どもの成長への視点

② 安全への配慮

四 話し合い

五 話し合いの結果を発表する

六 まとめ

★まとめの例

キャンプ活動を通して子どもたちが成長していくことを話し合いました。山道を登る時にふざけあつてい

先月号に続き、ビデオを使つての学習について取り上げてみましょう。

先月号では「この目の輝きを」を使って、安全教育の基本^①について考え合うための手順を記載しました。

子どもたちは、発達段階に応じて必要な体験をすることが設定され、その活動を通じて事故防止に役立つ能力が身に付いていくことを学び合うものでした。

今月は、この安全教育の基本を受けて、子ども会活動の準備、計画と子どもの成長という視点から「キャンプ」を、具体的な運営方法を学ぶという視点から「水の事故ゼロへの願い」を取り上げ、その実施手順を記載しましょう。

●ステップ2

「キャンプ」

★準備・計画と子どもの成長★

一 事前指導

事前指導については、次のように具体的に進めましょう。

「子どもたちは、キャンプを通して、自然との交わりを深め自然の営みと共に生きることを学びます。また、子どもの興味、未知への新しい経験や冒険心を満たしてくれる活動がキャンプです。このビデオは、ある子ども会が初めて実施するキャンプの様子の記録です。生き生きとした子どもたちの姿が印象的です。キャンプの実施にあたっては、事前の周到

で綿密な準備の必要性、指導者の安全への目配りや配慮の大切さなど、キャンプ実施上の基本的な事項を提示しています。

このビデオを通して次のことを考えてみましょう。

● キャンプ活動とは。

● キャンプ計画を立てる時のポイントは。

● キャンプ活動の中で子どもたちの成長の姿を具体的に捉えてみよう。

このような事前指導の後ビデオを観賞します。

二 ビデオを観賞する

三 話し合いの進め方

話し合いを進めるために、次のこ

危険予知トレーニング 9ステップのすすめ方

○KYT4ステップより分類を細かくし、危険箇所の理由や具体的な安全対策を考え、日常生活にKYTをどう生かすかを考えるのがKYT9ステップです。

KYT9ステップのすすめ方

- (1) KYTの特色……………4ステップと同じです。
- (2) 準備……………4ステップとほぼ同じですが、KYT記入シートがあると進めやすい。
(※記入シートはP54～参照)

ステップ1 導入段階……………意欲づくり・動機づけ・危険の発見

- ① 一人ひとりイラストシートを見て、危険な箇所に○をつける。
- ② グループ毎で発表を行い、自分では気がつかないことも発見できるようにします。
- ③ グループで危険箇所をまとめます。このとき、危険な理由も考えます。

ステップ2 展開段階①……………危険箇所の発表

- ① グループでまとめた危険箇所を、1グループ1つずつ発表していきます。その時、「なぜ危険なのか」を合わせて発表してもらいます。

ステップ3 展開段階②……………危険箇所の絞りこみ・分類

- ① ステップ1で記入した「危険箇所」は次の6項目のどれに当てはまるかを考え、シートに記入する。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ・『人の行動』……………○印 | ・『場所の問題』……………☆印 |
| ・『用具の危険』……………△印 | ・『子どもたちの心理状況』……◎印 |
| ・『服装の問題』……………□印 | ・『子どもの体力』……………*印 |

ステップ4 展開段階③……………分類ごとに1つを選ぶ・1番重要なものを発見

- ① グループ毎で分類した項目ごとに一番重要な危険箇所を1つずつ選びます。また、それが一番重要な理由を考えます。
- ② 項目ごとに決めた一番重要な危険箇所を発表します。

ステップ5 展開段階④……………具体的な対策を考える

- ① 全体で決めた各項目の重要な危険箇所に対して、どのようにすればよいか具体的な対策をグループ毎に考えます。

ステップ6 展開段階⑤……………実行計画による確かめの行動 スローガンの作成・指差唱和

- ① 安全に対する備えができたところで、グループ毎にスローガンを決めます。
- ② グループのスローガンを全員起立して指差唱和をします。

ステップ7 展開段階⑥……………スローガンを全員の前で発表

- ① 練習したスローガンの唱和を全員の前で発表をします。

ステップ8 展開段階⑦……………発表に対するまとめ

- ① 指導者が各グループの発表に対する講評をしますので、そのまとめを記録します。

ステップ9 整理段階……………一般化する

- ① KYTで学んだことを日常生活の中にどう生かせるか考え、自分の言葉にします。

・個人やグループで行う作業は時間を決めておくと、全体がスムーズに流れます。

(金子達「みつけたキケンくん」より)

子ども会KYT模造紙版・OHPフィルムの活用方法

○子ども会KYTを指導して

子ども会KYTは、子どもたちの学習意欲を引き出す安全教育として、皆様から喜ばれているものです。実際にKYTを子どもたちと一緒に学習していると変なところに引っかかることを発見しました。KYTをすすめているときの子どもたちの会話です。

*発表するための模造紙（B紙）に向かって

「この模造紙（B紙）に書くんだって」

「何を書くの」

「危険なところだってさ」

「書けないよね、長くなるぞ、この子があぶないので○をつけたけれどなんて説明すればいいんだ。面倒だね」

「おれ、字が下手だから、書かないよ」

「ひらがなでいいかな」

このような会話が必ずあります。この中には大きく2つのことが話されています。1つは危険な状況を文書で書くことが難しいということです。もう1つはグループで話し合ったのですが、模造紙（B紙）に書くのは、代表者1名であるということです。

このことを解決するためには、模造紙（B紙）に書かないで、発表することしかありません。しかし、この方法ですと、どのグループが何を言ったか指導者が書き留めなくてはなりません。子どもの発言を黒板に丁寧に書いていく作業は、そう簡単ではありませんし、時間もかかります。

このことを解決したのが、模造紙大やOHPを使用したKYTシートです。発表するとき大きな絵やスクリーンで大勢見れますし、模造紙版だとマグネットでOHPシートだと水性ペンで危険箇所を簡単に指摘することができます。また、色違いのマグネットや水性ペンでグループ発表の色分けや危険箇所の分類をすることができます。

○使い方

（説明は模造紙版です。OHPシートも同様なやり方です。）

「子ども会KYT」研修会にて

①黒板にKYT模造紙版を貼ります。

②KYTの説明をするときに、実際に使って説明するとよいでしょう。

「この大きな模造紙版の絵と同じものをこれから皆さんに配ります」というように説明します。

③各グループから発表をしてもらいます。そのとき代表者が前に出てきて、危険な箇所を差し示すようにします。

④全グループが発表し終えたところで、危険箇所の分類に入ります。

「用具に危険は赤いマグネット、人間の行動は黒いマグネット」とマグネットの色を指定し分類した危険箇所を模造紙版の上に明確にします。

⑤分類された危険箇所のそれぞれの色から1つだけ残す作業をします。

「この黒いマグネットで示された人間の行動のうちで一番危ない、危険度の一番高いものはどれか。また、よく起こる事故についてチェックしてみましょう」という具合にし、危険箇所を絞り込みます。このとき、黒板を見て作業をするのではなく、自分たちが記したシートで作業するようにします。グループの結束力が拡散しないためですから、必ずシートで作業するように指導してください。

KYT 記入シート



シートNo		シート タイトル	
名前		グループ名	

◆ステップ1 〈導入段階〉

それぞれが考えた危険なポイントを下の表にグループでまとめましょう。

また、「なぜ危険なのか」その理由も考えて記入しましょう。



	グループでまとめた危険なポイント	なぜ危険なのか・危険の理由	分類
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

◆ステップ2 〈展開段階①〉

上の表にもとづいて発表します。



シートNo		シート タイトル	
名 前		グループ名	

④ステップ3 〈展開段階②〉

ステップ1で記入した「危険なポイント」は、次の6項目のどれに当てはまるかグループで考え、KYT記入シート①の表の「分類」のところにマークを記入しましょう。

- 「人の行動」について……………○印
- 「場所の問題」について……………☆印
- 「用具の危険」について……………△印
- 「子どもたちの心理状況」について……◎印
- 「服装の問題」について……………□印
- 「子どもの体力」について……………*印

④ステップ4 〈展開段階③〉

(1)分類した項目(同じマーク)ごとに1番重要な「危険なポイント」を1つずつ選び、下の表に記入しましょう。また、なぜそれが1番重要なのか選んだ理由も記入しましょう。



- 「人の行動」について／○印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「用具の危険」について／△印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「服装の問題」について／□印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「場所の問題」について／☆印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「子どもたちの心理状況」について／◎印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

- 「子どもの体力」について／*印

1番重要な「危険なポイント」	選んだ理由

シートNo		シート タイトル	
名 前		グループ名	

(2)全体で決めた項目ごとの1番重要なポイントを記入しましょう。



● 「人の行動」 について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

● 「用具の危険」 について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

● 「服装の問題」 について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

● 「場所の問題」 について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

● 「子どもたちの心理状況」 について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

● 「子どもの体力」 について

1番重要な「危険なポイント」	具体的な対策

シートNo		シート タイトル	
名 前		グループ名	

④ステップ 5 〈展開段階④〉

全体で決めた項目ごとの1番重要なポイントについて、
どのようにすればよいのか具体的な対策をグループでまとめ、
KYT記入シート③の表の「具体的な対策」のところに記入しましょう。



④ステップ 6 〈展開段階⑤〉

グループで話し合い、行動目標としての「スローガン」を決めましょう。

--

④ステップ 7 〈展開段階⑥〉

発表のための役割分担をしましょう。
また、どのように発表するかを確認しましょう。



発表者	
発表補助者	
発表の手順	<p>(1)整列（グループのメンバー全員）</p> <p>(2)礼</p> <p>(3)グループ名を言う</p> <p>(4)発表者の名前を言う</p> <p>(5)グループでまとめたことを発表する</p> <p style="padding-left: 20px;">a) スローガンを発表する</p> <p style="padding-left: 20px;">b) スローガンを決めた理由を述べる</p> <p style="padding-left: 20px;">c) スローガンの指差唱和全員で行なう</p> <p>(6)発表終了、整列</p> <p>(7)礼（すばやく席に戻る）</p>

シート№		シート タイトル	
名 前		グループ名	

◆ステップ 8 〈展開段階⑦〉

発表に対するまとめを記録しましょう。



◆ステップ 9 〈整理段階〉

今日学んだことを今日からの日常生活の中にどのように生かせるか考えましょう。





自分でつくろう！子ども会KYT

自分たちの手でKYTシートを作成することによって、「子ども会KYT」の活用に関してステップアップすることになります。下の手順にしたがってKYTシートを作ってみましょう。

1. 日常生活や行事活動等の中で、あなたが「危ない」と思ったことや実際にケガをしたことなどの場면을イラストにしてみましょう。

2. イラストができれば、どこが危ないかを箇条書きにしましょう。



- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)
- (9)
- (10)

3. イラストにタイトルをつけましょう。（本誌掲載の危険予知トレーニングシート参照）

みんなで考えよう

どこがあぶないかな？

(状況)

安全教育参考資料の紹介

安全教育参考資料

○安全教育の視点	A 5 判	56 ページ	260 円
○安全教育ノウハウ	B 6 判	32 ページ	160 円
○こうしてすすめよう子ども会KYT	B 5 判	52 ページ	320 円
○みつけたキケンくん	B 5 判	76 ページ	500 円
○みつけたキケンくん模造紙版		24 シート	3,000 円

※申し込み問い合わせは… 市町村子連または県子連事務局まで

行進曲の早さで

愛知県子ども会連絡協議会制定

愛知県子ども会の歌 (小さな手)

作詞 道夫 静子
作曲 星野 静一
編曲 森 一也

The musical score is written on seven staves. The lyrics are written below the notes. The tempo is marked 'mf' (mezzo-forte). The key signature has one flat (B-flat). The time signature is 2/4. The lyrics are:

 一 両手をしっかり にぎろうよ

 二 みんな小さな 手だけれど

 三 両手を元気に ならそうよ

 みんな小さな手だけれど

 いつか世界の 朝をよぶ

 明るいあすが やってくる

 ああたのしい 愛知の子ども会

小さな手

- 一 両手をしっかり にぎろうよ
みんな小さな 手だけれど
ごらん大きな 輪ができる
明るいあまの 花ひらく
ああたのしい 愛知の子ども会
- 二 両手をまっすぐ のばそうよ
みんな小さな 手だけれど
高い空まで すぐとどく
明るいゆめが あふれてる
ああたのしい 愛知の子ども会
- 三 両手を元気に ならそうよ
みんな小さな手だけれど
いつか世界の 朝をよぶ
明るいあすが やってくる
ああたのしい 愛知の子ども会

愛知県子ども会連絡協議会

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-4-7

愛知県社会福祉会館内

TEL (052) 231-0140

FAX (052) 232-2050

1冊 200円